

記入年月日 平成26年 3月31日

事業名	市民参加の応援隊による地域活性化モデル事業(いきいき協働事業)
団体名	NPO法人 tnc中小企業支援センター
担当課名	産業振興課
事業期間	平成25年 4月22日～平成26年 3月31日

**<いきいき協働事業の自己評価>****①地域の課題が解決されたか(計画時に設定した課題がどの程度解決されたか、対象者がどう変わったか)**

アンケートによる実態把握や市民等との意見交換を通じて、地域住民のニーズを再認識することができた。さらに、活動参加の市民・学生にとっても商店街の抱える問題点を再認識し理解を深めるとともに、活動を通じて日ごろから抱えている問題意識について活動を通じて具現化することができた。

また、イベントでは、花を駅前ロータリーのフェンスや店頭に飾ることにより商店街に彩りを加え、来街者の関心を高めることができ、特に「街角ギャラリー」では地元小学校を巻き込むことにより児童やその父兄を商店街に呼び込み、小学校の商店街との連携の道筋を作ることができた。

事業者は、アンケート結果や意見交換の機会を通じて市民ニーズに直接触れ、イベントに対しても概ね全事業者が「良い取り組みだった」と回答し、今後も参加したいとの意向が強く満足度が高かった。

**②自らの団体の長所が発揮できたか(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない成果が得られたか、市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できたか)**

当NPOおよび各メンバーともに商店街支援や中小企業支援の経験も多く、事業全体の企画・運営に際して専門的な対応ができたと考える。

具体的には、対象商店街選定におけるデータ分析、アンケート配布・回収やイベント協力依頼等、全事業者をメンバーで手分けして個別事業者を巡回した。その際、中小企業支援の専門的知識や指導経験を有するメンバーが課題やニーズの把握を行った。また、ワークショップ運営やイベント企画立案においても、他事例の情報やファシリテート経験豊かなメンバーが運営にあたり、参加者の意見を引き出し整理するなど、効果的な運営ができたと考える。

**③協働の姿勢が図られたか(互いの組織としての理念・使命や組織運営の考え方など相互理解が図られたか、対等関係維持のために適切な協議や意見交換の機会を設けたか、相手方と十分な情報共有が図られたか)**

事業の事前準備、活動期間中において適宜打合せの実施をはじめ情報の共有化と連携を図りながら、スムーズな運営を心掛けた。また、実際の活動(ワークショップやイベント等)においても、産業振興課の参加があった。

**④改善提案**

事業募集時期を秋以降にするなど、もう少し遅くできないか検討して欲しい。

**自由記載欄**

担当課である産業振興課には、事前検討から事業展開において、様々なアドバイスや市内の情報提供、市報掲載やアンケート回収窓口、ワークショップやイベントへの参加等、大変お世話になった。

記入年月日 平成26年 3月31日

事業名	市民参加の応援隊による地域活性化モデル事業(いきいき協働事業)
団体名	NPO法人 tnc中小企業支援センター
担当課名	産業振興課
事業期間	平成25年 4月22日～平成26年 3月31日

**<いきいき協働事業の自己評価>****①地域の課題が解決されたか** (計画時に設定した課題がどの程度解決されたか、対象者がどう変わったか)

花小金井地域のアンケート調査の実施に併せて市民の方との意見交換会を開くことにより、事業者や市民といった様々な立場の状況把握と、地域住民のニーズについて確認することができた。

市民を巻き込んだ2つのイベント事業については、社会貢献を望む主婦層、アクティブシニア層及び学生といった方々を呼びこむことができた一方で、事業者及び市民の参加者が少なく、課題解決の取り組みには難しさを感じた。今後は事業者の意識改革を進めないと市民参加の応援隊は実現が難しいと感じる。

**②団体の長所を発揮させることができたか** (市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られたか、市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができたか)

提案団体は、事業全体の企画・運営に専門的な知識を利用した運用を行い、アンケート調査では調査結果の分析や問題点の抽出など、長所が発揮されていた。ワークショップでは意見交換をスムーズに進め、ファシリテーターとして十分に存在感を発揮していた。しかし、事業者や市民を巻き込んだ取り組みとしては物足りなさを感じた。

**③協働の姿勢が図られたか** (互いの組織としての理念・使命や組織運営の考え方など相互理解が図られたか、対等関係維持のために適切な協議や意見交換の機会を設けたか、相手方と十分な情報共有が図られたか)

地域の選定や調査など、意見交換を進めることができた一方で、最終的なイベント事業については十分な意見交換ができなかった。

**④改善提案**

今回の事業については、実施地域を選定しないで実施したため、調査するまでに時間がかかってしまった。また、地域の事業者との調整が無かったため、事業者の参加が厳しかった。事業採択の段階で具体的な場所などを設定しておかないと、効果の高い事業として進めることは難しい。

**自由記載欄**

平成25年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	市民参加の応援隊による地域活性化モデル事業
団体名	NPO法人 tnc中小企業支援センター
担当課名	産業振興課

**①目的の共有**（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も協議を重ね双方の考えを出し合った結果、事業開始時期には相互理解が深まり、目的である地域住民と商店街(事業者)が主体となった地域づくりに向け事業を実施することができた。</li> </ul>	

**②自主・自立の尊重**（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：概ね達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体が活動しやすいよう市が事業実施体制の環境整備を図ったことで、双方が主体となって事業を展開することができた。</li> <li>・事業を進めるうちに十分な意見交換ができなかったため、協働としての関わりが薄くなってしまった。</li> <li>・市と連携し、大型店に協力を要請すれば、更に効果が見込まれたと思われる。</li> </ul>	

**③相互理解**（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施前に、団体の理念や活動方針、市の組織体制などについても事業の目的とともに事前に何度も協議や意見交換を重ねたことで、相互理解を深めることができた。</li> <li>・スケジュールや進行管理を調整及び共有するのにあたり課題が生じたが、解決に向けて柔軟な対応を図った。</li> </ul>	

**④対等関係**（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対等な立場をあえて意識することはなく、自然の流れでそれぞれの役割や特徴を理解し尊重したうえで、協議や意見交換を行っていた。特に、地域活性化モデル地域の選定や調査などに関しては、対等な立場で意見交換を進めることができた。</li> <li>・事業実施前や当初は、何度も意見交換や協議の場を設け意思疎通を図ってきたが、事業が進行するにつれて目の前の対応が中心となり、協議の機会が取れなくなってしまった。</li> </ul>	

### ⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・進行状況及び段階に応じて、情報提供及び情報共有することを意識して行った。地域活性化モデル地域の選定の際、限られた時間の中で情報共有することができた。	

### ⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・団体の専門的な知識や経験豊富なファシリテーター能力、市の広報力や関係機関等との調整力など、それぞれの特性を活かした役割分担を明確に定めることができた。	
・地域活性化モデル地域の選定に時間を要し、その後の進行に影響が生じてしまったため、事前にある程度役割分担を明確化し、調整する必要があった。	

### ⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・団体としては、市と協働できたからこそ、市民や商店街、学校などの協力を得ることができ、地域を巻き込んだ効果的な事業を展開することができた。	
・アンケート調査結果の分析や問題点の抽出など、団体の専門性を活かし実施することで、地域住民のニーズを把握することができた。	

### ⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・アンケート調査を実施したことで、地域住民のニーズを把握することができた。	
・活動参加者への呼びかけは大変であったが、参加した方からの評価は高かった。	
・各種イベントの参加人数が思うように伸びず、活動の広がりや地域のつながりを具現化することの難しさを実感した。	

### ⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）

団体自己評価：概ね達成できた	担当課自己評価：達成できた
・アンケート調査や市民等との意見交換を通じて実態把握を行うことで、地域住民のニーズや商店街の問題点を再認識し、それに対する活動を具現化することができた。	
・地域の課題解決に関わりたい市民をどのようにコーディネートしていくのか、それに係る費用について。	
・事業者及び市民の参加者が少なく、課題解決の取り組みに難しさを感じた。今後、事業者の意識改革とともに商店街に市民を呼び込んでいく市民参加のしくみづくりの検討が必要である。	

### ⑩その他意見（提案団体から）

- ・事業完了時の報告だけでなく、中間報告を行い途中で振り返り立て直しを行う機会を設けた方が良いのではと感じた。
- ・事業報告書を作成したことで、他の地域の商店街等から様々な反響があった。

### ※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかった